

2017 10/14

常陽リビング

shinia*ouen

シニア応援!

rakusho*seikatsu

楽笑生活

No.4

発行所 常陽リビング社

〒300-0832 土浦市桜ヶ丘町7-10 Phone:029-824-7111(代表) Fax:029-824-8443

JAFNA



日本ABC協会加盟紙
(新聞雑誌部数公表機構)

<http://www.joyoliving.co.jp>

| 楽笑名人ファイル | ①

堀江 透さん(73)



今やってみたいのは「子ども向けの化学教室かな」

70歳で自宅に地域住民が交流できる将棋サロンを開いた堀江透さん(つくば市)は、退職後に立ち上げた会社で研究者の育成や橋渡しにも奔走。多忙な日々の中でも、憧れの坂本竜馬関連の歴史散歩や夫婦そろっての旅行も欠かさず、「竜馬のように人と人をつなげることが私の役目」と目を輝かせる。

肩書きより「働くこと」

仕事の傍ら、自宅に将棋サロンを開いたのは3年前。先月は初めて子ども向けの将棋教室を開き、ちびっ子に将棋のいろはを指南。幼い頃から好きだった将棋を通じて仲間の輪を広げ、前向きな人生を楽しもうと始まったサロンだったが「思いのほか忙しくなっちゃって」と苦笑いする。

1944年(昭和19)栃木県生まれ。中学生時代は小遣いで薬品を購入し、自室の押し入れに自分だけの「薬局」を作って実験を繰り返していた。「とにかく自分で試してみないと気が済まない性格」で大学は薬学部を卒業し、就職した製薬会社では医薬品開発に従事。少年時代の好奇心そのままに研究を続け、常に「もっと良いものがで

きるんじゃないか」と試行錯誤した。そんなある日、仕事で老人介護施設を訪れた。会話の輪から孤立した老人が何人かいることに気付いた。聞けば、どの人の経歴も華々しいものばかり。「現役時代の肩書きやプライドを忘れた方が定年後は楽なのかもしれない」と考えさせられた。定年まで5年ほど残して製薬会社を退社すると、「会社の定年」人生の定年じゃない」と程なく鳥取、宮城、東京に会社を立ち上げた。自身の経験を生かし、優れた技術や研究者を別の会社や研究者に結び付けたり、学会に参加したりと精神的に全国を飛び回った。会社や肩書きに関わらず付き合ってくれる人こそが自身の財産。「そもそも働くという字は人のために動くってことだからね」

多忙な毎日の中でいつも心に留めているのは、仕事と遊びのバランス。出張先では温泉に入ったり、先の世を見据えて人と人をつないだ坂本竜馬の足跡を追う旅が楽しみ。シニア世代の敵は「退屈と孤独」と考え、新しい楽しみを見つけては食欲にチャレンジ。日々自分に問いかけるのは、これからの自分に何ができるか。「体が丈夫なうちは世の中との接点を持ちたい。いつだって、人と人との出会いが感動をつくってくれるからね」

shinia*ouen
シニア応援! 楽笑生活